

2(2) その他, 特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果, 世界的位置付けなど。(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

大学院教育

1. 「博士課程前期・後期連携接続による先駆的工学系博士課程カリキュラム」

在学期間短縮による早期修了の促進およびその際の教育の質を保証する博士課程プログラムを構築するため, 博士課程前期・後期連携接続による先駆的工学系博士課程カリキュラムをスタートさせた。全学のプログラムである高度技術経営塾のカリキュラムを上記の博士課程プログラムにおける正規カリキュラムとして取り入れた。

2. 平成17年度の文部科学省「派遣型高度人材育成共同プラン」の事業に「環境に優しい鉄鋼材料創出教育プログラム(材料科学系)」が5年間の事業として採択され, 継続実施している。

産学が人材の育成に関して建設的に協力しあう体制の下で, 社会の抱える諸問題や産業界の取組を理解し, 知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材を育成するという, これまでにない新たなコンセプトのインターンシップを実施している。

3. 平成19年度原子力人材育成プログラムの事業において「原子力研究基盤整備(文部科学省)」および「チャレンジ原子力体感プログラム(経済産業省)」の2件が採択され, 青森県六ヶ所地域で活躍する社会人に対して量子エネルギー専攻が現地産業界との連携の上で, 基礎から専門までの大学院高等教育を継続実施している。

4. 都市・建築学専攻が主催する国際建築ワークショップ(WAW)は, 4大陸5カ国の大学が共同で取り組む大学院レベルの多国籍スタジオであり, 7年以上に渡り毎年, 教育方法, 成績評価について議論し改善を加え, 自発的FD機能を有するきわめて実質的な英語による国際的デザイン教育環境の構築がなされている。本活動は, 平成20年度の文部科学省国際加速化プログラムに採択されたほか, 長年の活動に対し国内で最も権威のある賞である「平成20年度日本建築学会教育賞」を受賞した。

学部教育

1. これまでの紙ベースでの「学習等達成度記録簿(ポートフォリオ)」に代わって電子ファイルシステムを導入し, 効率性の高い修学指導を実施した。新システムへの移行に当たっては, 事前に質問項目を見直し, 本学部における教育目標との整合性を保つ様に改善を行った。

なお, 東北大学高等教育開発推進センターにより『工学部が先陣を切った実践の成果と自己点検結果を「後発性の利益」として捉え, 各学部独自の学士課程教育システムを導入する段階に今や来ている』との評価を得た。

特筆すべき研究活動

1. 平成20年度科学研究費補助金においては、7国立大学(旧帝国大学)に東京工業大学を加えた計8大学の工学系の研究科の中で教員一人当たりの採択金額が第1位となった。これは、本研究科の科学研究費補助金獲得に向けた取組による成果であるとともに、所属する各教員が行っている研究水準の高さを裏付けるものである。
2. 文部科学省のグローバルCOEプログラムにおいては、本学が平成20年度に採択された7拠点のうち、3拠点へ11名もの本研究科所属教員が中心メンバーとして参画している。これにより、現在本学が採択を受けている計12拠点(本研究科採択分1拠点を含む)のうち8拠点へ40名に及ぶ所属教員が参画していることとなり、こうした多岐の分野に亘る拠点への参画実績は「工学」のみに止まらない本研究科の研究の幅の広さを如実に現している。
3. 高橋 研教授が超高密度HDD用ディスク/ヘッド作製スパッタ装置の開発と実用化により市村産業賞貢献賞を受賞した。
4. 「工学研究科重点推進研究プログラム及び若手研究者萌芽研究育成プログラム」の助成を受けた准教授1名と助教1名が、平成20年度JST さきがけ研究に採択された。
5. 先端学術融合工学研究機構(CAST)においては、講座や専攻間の融合による学際的研究を推進すると共に、複数の若手研究者の自発的な発想に基づく萌芽的研究や新領域の開拓を目指し、現在9研究ユニット、23研究プロジェクトにより研究が推進されている。また、平成18年度よりプロジェクト支援経費が予算措置されている。
6. 工学研究科の教員の研究成果などの公表を促進する目的で、各系に毎月1件以上報道発表するよう推奨している。報道発表については工学研究科のホームページにも公開しており、平成17年1月20日より平成21年3月31日までの報道発表件数は539件に達した。

特筆すべき社会貢献活動等

1. 宮城県地域における地震・津波の危険性について共通の認識に立ち、宮城県及び仙台市と地震・津波災害を軽減するため、連携・協力に関する協定書を締結し、地域との連携を推進している。(宮城県とは平成18年2月10日、仙台市とは平成18年9月1日に締結)
2. 本研究科の優れた研究成果の公表、社会還元及び産学官連携の推進を図るため、大規模に開催される産学官連携推進会議等、各種イベント(展示会)へ積極的に参加し研究成果を出展している。
3. 平成21年2月26日・27日の両日、「青葉山まるまるツアー」と題し、大学キャンパスを「観光」する機会を一般市民に提供、約45名の参加者を得て、公共交通機関(市内周遊観光バス「るーぶる仙台」)を用いた青葉山周遊の企画ツアーを実施した。